



「未来」テーマに講義

「#地球塾2050」が開講

毎日新聞社が開発した教育プログラム「記者トレ」を活用し、地球の未来をデザインする企業と教育現場をつなぐ「#地球塾2050」が開講した。初回の講座は20日に東京都千代田区内であり、NTT宇宙環境エネルギー研究所の前田裕二所長が講師を務め、港区立高松中学校2、3年生の計24人が参加した。

地球塾は、文化人類学者の竹村眞一・京都芸術大教授がコーディネーターを務める。企業の担当者らがエネルギー、水、住まいなどのさまざまな「未来」をテーマに講義。日本がカーボンニュートラル(温室効果ガス排出実質ゼロ)を目指す2050

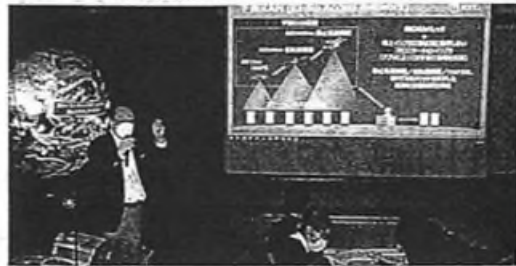
年に社会の中核を担う中学・高校生に聴講してもらう。生徒たちは講義を聴いて、地球の未来について話し合い、記者トレで学んだ表現スキルを使って、新たな地球のあり方についてのメッセージを特集記事にまとめて発信する。

初回の講座では、前田所長が、持続可能な社会の実現に向けた革新的技術の創造をテーマに講義。生徒たちを前に、研究所で宇宙環境などから地球の未来を変える技術の実現に取り組んでいることを映像を交えながら紹介した。

聴講した高松中2年生の栗林宙跳さんは、雷制御・雷充電技術の研究について「これからの未来で、雷をエネルギーに変える技術が実現できることに興味を持ちました」。

3年生の宮越桃子さんは「エネルギーに関心があったのですが、地球だけではなく、宇宙全体で

NTT宇宙環境エネルギー研究所の前田裕二所長の講義を聴く生徒たち＝東京都千代田区で20日、松田嘉徳撮影



考える発想ができるようになりました」と感想を語った。
【宮島友香】

